

| | | | |
|---|--|----|------|
| 視察研修先 | 千葉県松戸市 | 氏名 | 伊藤正彦 |
| 視察研修項目 | 子育て施策について（送迎保育ステーション、駅前・駅ナカへの小規模保育施設の整備） | | |
| 感想・所見など | | | |
| <p>1 市の概要</p> <p>松戸市は、都心から20km圏に位置し、6本の鉄道と23駅が点在する人口約497,000人の千葉県第3の市であり、市制施行後80年になる。ドラッグストアの「マツモトキヨシ」創業者である松本清氏が市長を務めた市である。</p> <p>議員定数は44名で女性議員は11名、常任委員会は4つ、一般会計予算は、約1,700億円、議員報酬は月額59万円、政務活動費は年額60万円である。</p> <p>2 研修概要</p> <p>「子育て施策（送迎保育ステーション、駅前・駅ナカへの小規模保育施設の整備）」の経緯は、平成27年4月国基準での待機児童が48人となったことに伴い、待機児童対策として以下のことを実施するようになったものである。この結果、国基準で8年連続待機児童ゼロとなっている。</p> <p>① 小規模保育事業の推進（0～2歳児への対応）</p> <p>特に保育需要の高い1歳～2歳児に対応するため、整備期間が短く、整備コストが安価であることから、利便性の高い市内全23駅の駅ナカまたは駅前に整備し現在は118か所（コンビニとほぼ同数）、利用者は1831人に上る（平成27年4月は8か所）。通勤時に電車を利用する保護者やフルタイムで就労している共働き世帯のニーズが増えている。</p> <p>② 幼稚園預かり保育事業の拡充（3～5歳児への対応）</p> <p>小規模卒園児の進路先確保に対応するため、市内36園の私立幼稚園の空き定員を有効活用し、36園中24園で幼稚園の預かり保育時間を延長するとともに、金銭的補助により就労している保護者の幼稚園進学へのニーズに対応、また、保育所等もこの4年間で52か所整備した。</p> <p>③ 送迎保育ステーション事業の推進</p> <p>預かり保育実施幼稚園がバスでステーションとの間を送迎し、幼稚園の預かり保育を促進するとともに、幼稚園の休園日対応のため、ステーションの日中の空き時間で一時預かりを実施している。現在は市内主要駅周辺に幼稚園型の送迎保育ステーション9施設を開設している。0から2歳は小規模保育施設へ、小規模保育施設卒園後は幼稚園へという流れができている。利用者からは、松戸市は共働き世帯をサポートする姿勢が非常に素晴らしいとか、パートのみの選択からフルタイム常勤も可能になり非常に子育てし易い制度だとの声が寄せられている。</p> <p>3 所見</p> <p>「子育て施策（送迎保育ステーション、駅前・駅ナカへの小規模保育施設の整備）」は子育て世帯にとっては、フルタイム共働きを可能にする素晴らしい施策であり、就労パターンを変えずに「幼稚園」に通うことができます！といううたい文句どおりの施策である。驚いたのは、これだけのことをやっても少子化に歯止めがかかっていないということであった。松戸市としては、国の施策に期待するとしつつも、全国のモデルケースとなる</p> | | | |

ような先進的取り組みを続けていくとしており、本市としても、少子化対策を重視していることから参考とすべき点が多々あるのではないかと感じた。松戸市の子供に対する支援は投資だ、最後は国がついてくるという考えは素晴らしいと感じた。

| | | | |
|---|-----------------------------|----|------|
| 視察研修先 | 東京都昭島市 | 氏名 | 伊藤正彦 |
| 視察研修項目 | アキシマエンシス（昭島市教育福祉総合センター）について | | |
| 感想・所見など | | | |
| <p>1 市の概要</p> <p>昭島市は、昭和29年旧昭和町と拝島村が合併して誕生した東京都7番目の市であり、人口は約11万人である。昔アキシマクジラが生息していたまちとして有名であり、マンホールの蓋をはじめ、全てにおいてクジラを活用している。また、都内で唯一深層地下水100%の水道水が飲める場所である。</p> <p>議員定数は22名で女性議員は5名であり、平成29年度一般会計当初予算は約416億円である。</p> <p>2 研修概要</p> <p>「アキシマエンシス」は、小学校の廃校をリニューアルして「教育福祉総合センター」として、市民図書館、郷土資料室、教育センター、子ども家庭支援センター、男女共同参画センター等が連携した複合施設として50億円をかけて令和2年3月28日にオープンしたものである。名称は、昭和36年に発見されたクジラの化石が新種のクジラであることにより付けられた学名をそのまま使用している。廃校になった小学校は、団地の高齢化に伴い、南北にあった小学校が統合されたことによるもので、当該施設の基本構想は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の学習意欲の高まりに十分対応できる図書館活動の拠点としての施設機能 ・市民の共有財産である貴重な文化資産を後世に正しく伝えていくための施設機能 ・教育の充実及び振興を図るための施設機能 <p>である。</p> <p>市民図書館は、20万冊の図書を揃えている他、20万冊が自動書庫にあり、数分でほしい図書を呼び出せたり、センサー付きの機械で整理したり、貸出しや返納も迅速にできる素晴らしいシステムで運営されており、また、閲覧スペースも各種形態に合わせて利用できるようレイアウトされている。開館待ちの人が並ぶほどである。</p> <p>郷土資料室は、ICT機器を活用したデジタルミュージアムとなっており、来館者が十分楽しめるように設計されている。</p> <p>指定管理者が管理運営しており、各種行事等を計画実施している他飲食スペースもある。</p> <p>3 所見</p> <p>団地の高齢化により統合・廃校になった小学校を見事に活用しており、多くの市民が喜んで訪れる施設に作り上げたことは大変素晴らしい。入り口を入ってすぐにあるアキシマクジラの化石に圧倒され、快適な図書館で学び、郷土資料室で、郷土の歴史を学び、講演会等も実施できる施設は市民の憩いの場にふさわしく、廃校もここまで立派に蘇れば本望ではないだろうか。また、指定管理のいい面も出ているように感じた。本市の図書館も指定管理になって充実した図書館になることを期待したい。</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------------|----|------|
| 視察研修先 | 神奈川県大和市 | 氏名 | 伊藤正彦 |
| 視察研修項目 | 「おひとりさま支援条例」と高齢のひとり暮らしの方を支援する取組について | | |
| 感想・所見など | | | |
| <p>1 市の概要</p> <p>大和市は、都心から40km圏内の神奈川県のほぼ中央に位置する人口約24万人の市であり、市域のほとんどは市内にある8つの駅から15分以内の徒歩圏内にある便利なまちであり、海上自衛隊厚木基地と米軍厚木基地がある。</p> <p>議員定数は28名で、女性議員は6名、常任委員会は4つ、特別委員会が2つある。28年度一般会計当初予算は約850億円、議員報酬は月額439,000円で、政務活動費は年額42万円である。</p> <p>2 研修概要</p> <p>条例制定の背景は、益々長寿化していく世の中で、全国でひとり暮らしの方が昭和55年には88万1千人であったのが令和22年には896万3千人と10倍になること等の推計を踏まえ、「閉じこもり傾向」や「社会的孤立」は、健康なおひとりさまにも悪影響をもたらすことから、外出や社会交流の促進に取り組むことがおひとりさまの「健康」にとって不可欠であると考え令和4年6月「おひとりさま支援条例」制定したものの。条例のポイントは、大和市が「健康都市やまと」を標榜しており、おひとりさまの健康のため孤立しているおひとりさまに対する外出支援を促進して「健『幸』都市やまと」を実現することであり、条例上の基本的施策は</p> <ol style="list-style-type: none"> ①おひとりさまに関する普及啓発→出前講座 ②おひとりさま及びその家族への相談支援→窓口相談 ③外出及び社会交流の支援→おひとりさまサロン ④情報の収集及び提供→生活お役立ちガイド <p>であり、「これ一冊あればひとり暮らしもひと安心！生活お役立ちガイド」「エンディングノート」を作成し発行している。健康福祉部におひとり様政策課があり、高齢のひとり暮らしの方を支援している。</p> <p>おひとりさまの居場所づくりのため、公園に健康遊具を設置したり、遊具の種類を変えて歩くように仕掛けている。また、安心してお出かけするために、緊急通報システム（地域包括支援センターへ）や救急医療情報キット（必要な情報を記入し冷蔵庫に保管）も整備している。</p> <p>3 所見</p> <p>おひとりさま支援のための課を作る等大和市のおひとりさまの健康維持に取り組もうとする本気度が伺えた。また、「ひきこもり」の方々に寄り添いたいとの思いから、より温かみのある「こもりびと」という呼称を使って、こもりびと専門の一次相談窓口として、「こもりびとコーディネーター」が相談にのっているのもいい施策であると感じた。今後増えていくひとり暮らし対応は、本市にとっても他人事ではなく、高齢者にいつまでも健康でいていただくために富士見市のフレイルチェック事業とともにしっかり参考にすべきと感じた。</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------|----|------|
| 視察研修先 | 埼玉県富士見市 | 氏名 | 伊藤正彦 |
| 視察項目 | 「フレイルチェック事業」について | | |
| 感想・所見など | | | |
| <p>1 市の概要</p> <p>富士見市は、名前のおり富士山が見える、市制50周年、人口11万3千人の市である。</p> <p>議員定数は21名で、女性議員は5名、常任委員会は4つ、特別委員会が1つある。議員の平均年齢が51歳と若い。</p> <p>令和5年度一般会計当初予算は、約390億4千万円、議員報酬は月額379,000円で、政務活動費は年額24万円である。</p> <p>2 研修概要</p> <p>フレイルとは、年をとって心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）が低下した状態をいい、多くの人が健康な状態からこのフレイルの段階を経て、要介護状態に陥ると考えられており、フレイルの兆候を早期に発見し、日常生活を見直すなどの正しい対処を行えば、フレイルの進行を抑制したり、健康な状態に戻すことができるとの考えから、富士見市では、令和2年度から「フレイル予防を通じた高齢住民主体の健康長寿まちづくり」のために東大式「フレイルチェック」を導入した。</p> <p>富士見市が目指す未来は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 高齢者の健康寿命の延伸 ② 将来的な介護給付金の抑制 ③ 高齢者の生きがいづくり ④ フレイル予防産業の創出による地域経済の活性化 <p>であり、産・学・官・民の連携でフレイル予防を軸とした高齢住民主体の健康長寿のまちづくりを進めている。</p> <p>市民主体（フレイルサポーター）による栄養・運動・社会参加を軸とする包括的フレイルチェックを実施することにより「集いの場を気づきの場へ」として、赤と青のシールを貼りながら楽しく健康状態をチェックするような場を設けている。フレイルサポーターは、7期生まで38名を養成しており、上級講座を受けたフレイルトレーナー（市職員）が養成研修を実施している。フレイルサポーターは連絡会を設立してボランティアとして活動しているが、サポーターの平均年齢は75歳、年齢層は64歳～84歳という課題もある。フレイルチェックは全国で101自治体が導入しているが、残念ながら山形県ではまだない。</p> <p>3 所見</p> <p>高齢者を対象とした施策の実施により、健康長寿のまちづくりをすることは、介護給付費の抑制にもつながり、極めて有益なことであろう。大和市のおひとりさま政策しかり、高齢者に対する施策も少子化対策に匹敵する重要施策であると感じた。大都市ならではの大企業の支援やまちなか薬局が経営するカフェの支援等本市では難しい面もあるもののしっかり考えていかなければならないと改めて認識した。</p> | | | |